

私たち農林中央金庫の仕事は、  
ある日突然、世界を大きく変えるようなものではない。

なぜなら私たちが向き合う農林水産業とは、  
自然を相手にし、一朝一夕に変化や成果を生み出すものではないから。  
モノをつくるのではなく、「いのち」を生み、育て、繋いでいくものだから。

だからこそ私たちは、世界の金融市場で安定した利益をあげるという挑戦を続け、  
規模の大小を問わず、地域と農林水産業を守る人々に尽くす金融機関として生きてきた。  
そうして、100年の歴史を重ねてきた。

しかしこれからは、それだけでは十分とはいえない。  
農林水産業が、時代の変化をとらえ発展し続ける産業になるためには、  
私たちは、これまで以上の役割を果たさなければならない。

金融の知見を活かしながら、いままでの機能や範囲を超えた新たな貢献へ。  
現場の課題の解決に、身をもって真摯に挑んでいく。  
生産者はもちろん加工や流通、そして消費者と向き合い、その声に応えていく。

農林水産業から生まれる「いのち」は、  
その先に連なるたくさんの「いのち」の営みに繋がっている。

いまこそ、私たち一人ひとりが、持てるすべてを発揮する時。  
未来へと受け継がれるこの「いのち」の連鎖を、  
より豊かで確かなものにするために。

# 持てるすべてを「いのち」に向けて。

Dedicated to sustaining all life.

## 農林中央金庫

### 本年度の統合報告書ポイント

**読み進めやすい構成を目指し、  
本誌を4つのChapterに区分け**

読み進めやすい構成を目指して、本統合報告書の記載内容を4つのChapterに分けました。それぞれのChapterを通じてみなさまにご紹介したいことを目次やChapter冒頭に記載しました。

**経営の想い・考え等をお伝えできるような構成**

理事長メッセージをはじめ、これまで以上に経営層の想い、考え、そして価値を生み出すために今重視していることは何か——これらをみなさまに一連の流れのなかでお伝えできるような誌面構成としました。

**事業活動にかかる実績等の記載を工夫**

パーパス(私たちの存在意義)、重要課題、中期ビジョン、そしてこれらの実現・解決を目指す私たちの事業活動(ビジネス)をより深くご理解いただけるように、各取組みの実績や事例などの記載を工夫しました。

## ● ごあいさつ

みなさまには、平素より当金庫の業務に関し、多大なるご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。このたび、当金庫の概要や2024年度の業務実績等を紹介したディスクロージャー誌を発行しましたので、ぜひご一読ください。

2024年度は、海外経済に目を向けると、地政学リスクの高まりや各国における保護主義の台頭といった動きが見られたものの、米国経済を中心に総じて底堅い成長を見せるなか、主要国の政策金利は緩やかな利下げトレンドに入っています。一方で、日本国内では利上げが実施され政策金利は17年ぶりの水準となりました。こうした金融政策の根底にある世界的なインフレの状況は、食料・エネルギー等の価格高騰に結びついており、食料安全保障への対応が重要な課題となっています。加えて、農林水産業の現場では、気候変動の深刻化や自然災害の激甚化・頻発化、生産資材価格の高止まり等、その影響の深刻さが日に日に増えています。

こうした情勢変化を踏まえ、国内農政では、食料安全保障への対応強化や環境と調和のとれた食料システムの確立を盛り込む形で「食料・農業・農村基本法」

が四半世紀ぶりに改正されました。

当金庫としては、JA・JF・JForestグループと連携して、協同組合ならではの役割・機能を発揮しながら、農林水産業者をはじめとするステークホルダーのみなさまに対して最大限のサポートを継続してまいります。

なお当金庫は、2024年度に中長期的な収益力強化を目的として、投融資ポートフォリオの改善に取り組み、その結果として大きな損失を計上することとなりました。会員をはじめとするステークホルダーのみなさまには、多大なご心配とご迷惑をおかけしたことについてお詫び申し上げます。その一方で、会員のみなさまにはこのポートフォリオ改善の取組みを支える資本増強にご協力いただき、改めて感謝申し上げます。今回の反省を真摯に受け止め、ステークホルダーのみなさまからの期待に応えられるよう最大限の努力をしております。

最後になりますが、JAバンク、JFマリンバンク、JForestグループおよび当金庫を、これまで以上にお引き立て賜りますよう、お願い申し上げます。

2025年7月

